
さぬき市の「地域福祉」を考える
アンケート調査

報告書
(民生委員・児童委員)

令和 6 年 10 月

さぬき市
さぬき市社会福祉協議会

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査概要	1
3	報告書の見方	1
II	調査結果	2
問1	性別	2
問2	年齢	2
問3	担当地区	3
問4	民生委員・児童委員以外での地域福祉推進の立場	3
問5	民生委員・児童委員を何年勤めているか	4
問6	民生委員・児童委員を引き受けた動機	4
問7	福祉に対する住民の関心	5
問8	福祉に関する研修やイベントに対する住民の関心	5
問9	住民への福祉に関する情報の発信状況	6
問10	住民が福祉に関する情報にふれる方法	6
問11	高齢者が安心して暮らすために必要なこと	7
問12	障がいのある人が安心して暮らすために必要なこと	8
問13	子どもや子育て世帯が安心して暮らすために必要なこと	9
問14	生活困窮世帯への支援として必要なこと	10
問15	生活困窮者自立支援制度の認知	10
問16	生活困窮者自立支援制度についての相談や取り扱い	11
問17	成年後見制度の認知	11
問18	成年後見制度についての相談や取り扱い	12
問19	担当地区の課題	12
問20	担当地区で見守り対象としている人・世帯の有無	13
問21	災害時に支援が必要な人に対する日常的支援	14
問22	災害時に住民が支え合う地域づくりに必要なこと	15
問23	地域福祉推進のために行政に求めること	16
問24	今後の施策の方向性	17

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、令和6年度（2024）に策定する「さぬき市第5期地域福祉計画・さぬき市第5期地域福祉活動計画」の基礎資料として、地域のことや福祉について、民生委員・児童委員の目線から市民のニーズや地区の状況を把握することを目的に実施しました。

2 調査概要

調査地域	さぬき市全域
調査対象者	市内の民生委員・児童委員
抽出方法	全数調査
調査時期	令和6年7月下旬～令和6年8月上旬
調査方法	郵送配布、8月の地区民児協定例会で回収
配布数	115件
回収率	89.6%（103件）

3 報告書の見方

- ・回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100%にならない場合があります。このことは、本報告書の分析文章、グラフ及び表においても反映しています。
- ・複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100%を超える場合があります。
- ・グラフ及び表中に「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ・グラフ及び表中のn（number of case）は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を現しています。

II 調査結果

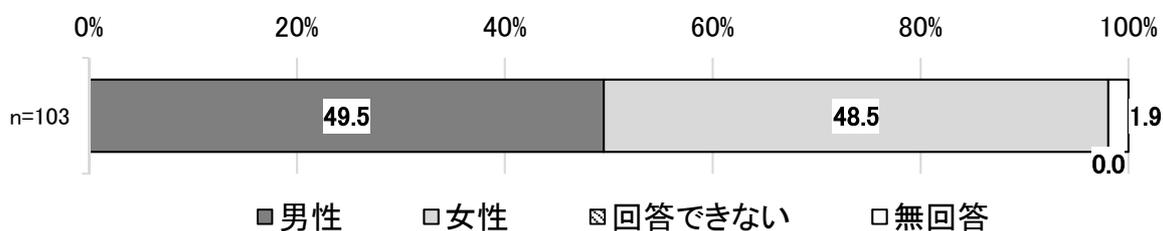
I. あなたご自身についておたずねします。

問1 回答者の性別

(1つに〇)

性別についてみると、「男性」49.5%、「女性」48.5%となっています。

【全体】単数回答

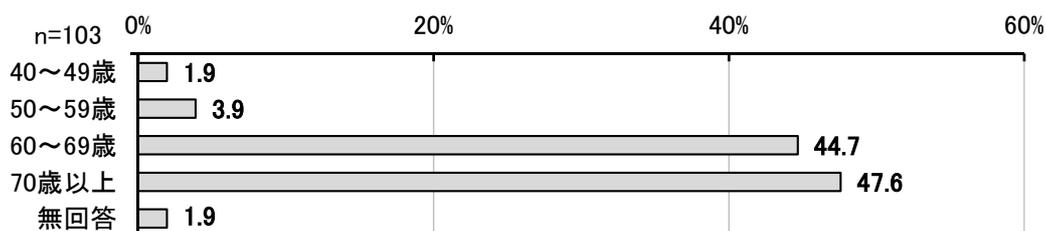


問2 回答者の年齢

(1つに〇)

年齢についてみると、「70歳以上」が47.6%、「60～69歳」が44.7%となっており、これらを合わせた「60歳以上」が92.3%となっています。

【全体】単数回答



問3 回答者の担当地区

(1つに〇)

担当地区についてみると、「志度」が34.0%と最も高く、次いで「長尾」24.3%、「大川」16.5%、「津田」13.6%、「寒川」9.7%となっています。

【全体】単数回答



問4 民生委員・児童委員以外で地域福祉推進の立場がありますか。

(自由記述)

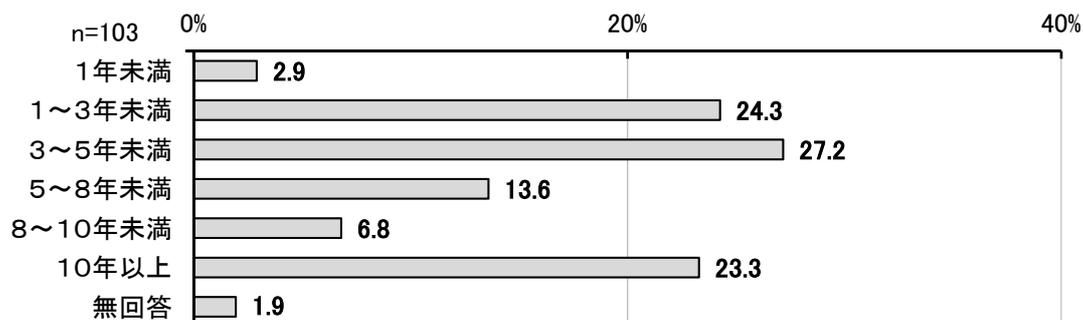
- ・いきいきネット委員、役員 (10件)
- ・福祉委員 (9件)
- ・自治会長 (3件)
- ・さぬき市共同募金委員会委員 (2件)
- ・地域安全推進委員 (2件)
- ・地域ふれあい見守り隊 (2件)
- ・見守り会役員 (2件)
- ・ふれあいサロン会長
- ・人権擁護委員
- ・地域福祉推進員
- ・玉の浦会
- ・老人保健施設理事
- ・地域福祉活動計画策定委員
- ・ファミサポ運営委員
- ・食生活改善推進協議会

問5 あなたは、民生委員・児童委員を何年勤めていますか。

(1つに○)

民生委員・児童委員の勤続年数についてみると、「3～5年未満」が27.2%と最も高く、次いで「1～3年未満」24.3%、「10年以上」23.3%などの順になっています。

【全体】複数回答

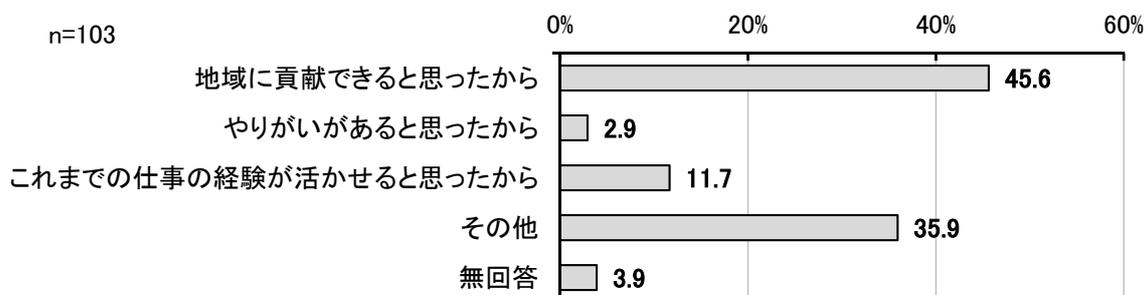


問6 あなたが、民生委員・児童委員を引き受けた動機についてお答えください。

(1つに○)

民生委員・児童委員を引き受けた動機についてみると、「地域に貢献できると思ったから」が45.6%と半数近くを占めています。

【全体】単数回答



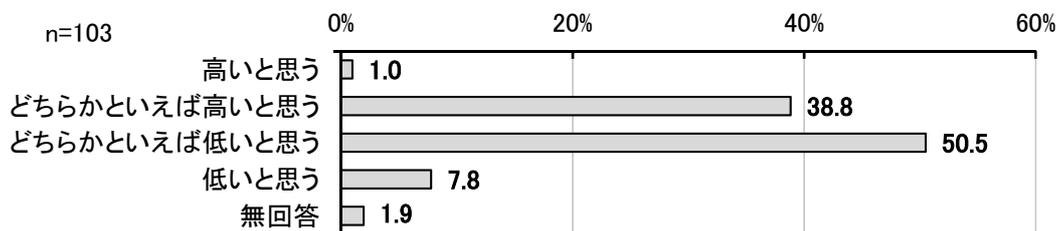
Ⅱ. 福祉の状況について

問7 あなたの担当地区では、福祉全般について住民の関心が高いと思いますか。

(1つに○)

福祉全般に対する住民の関心についてみると、「高いと思う」+「どちらかといえば高いと思う」39.8%、「どちらかといえば低いと思う」+「低いと思う」58.3%と、半数以上の方は福祉について住民の関心は低いと考えられています。

【全体】単数回答

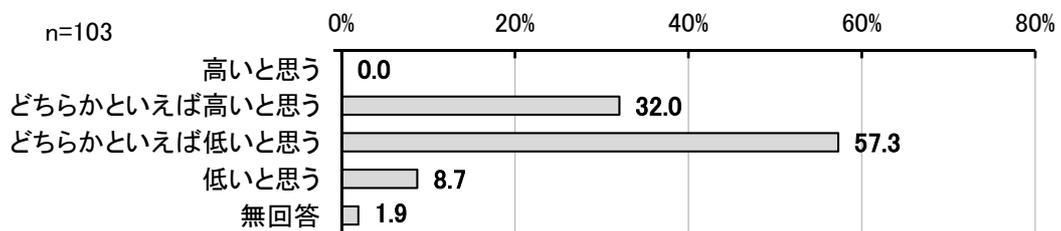


問8 あなたの担当地区では、福祉に関する研修やイベントについて住民の関心が高いと思いますか。

(1つに○)

福祉に関する研修やイベントに対する住民の関心についてみると、「高いと思う」+「どちらかといえば高いと思う」32.0%、「どちらかといえば低いと思う」+「低いと思う」66.0%と、6割以上の方は福祉に関する研修やイベントに対する住民の関心は低いと考えられています。

【全体】単数回答



問9 あなたの担当地区では、住民への福祉に関する情報は届いていると思いますか。

(1つに○)

住民への福祉に関する情報の取得についてみると、「届いている」+「どちらかといえば届いている」が62.1%と、6割以上を占めています。一方で、「届いていない」+「どちらかといえば届いていない」が35.0%と3割を超えています。

【全体】単数回答

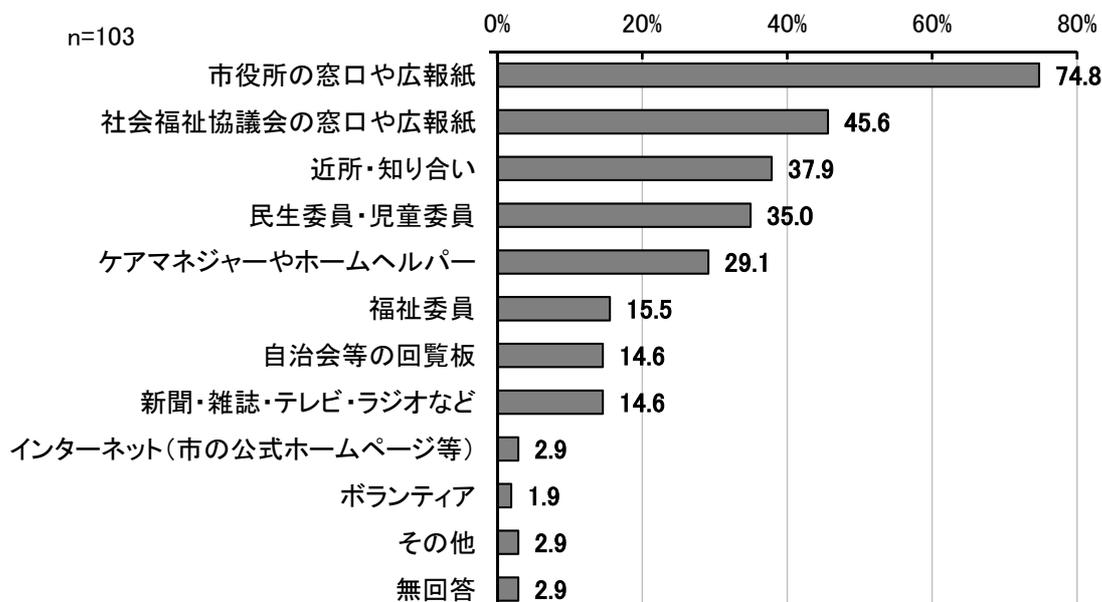


問10 あなたの担当地区で、住民が福祉に関する情報にふれる方法は何だと思いますか。

(○は3つまで)

住民が福祉に関する情報にふれる方法についてみると、「市役所の窓口や広報紙」が74.8%と最も高く、次いで「社会福祉協議会の窓口や広報紙」45.6%、「近所・知り合い」37.9%などの順になっています。

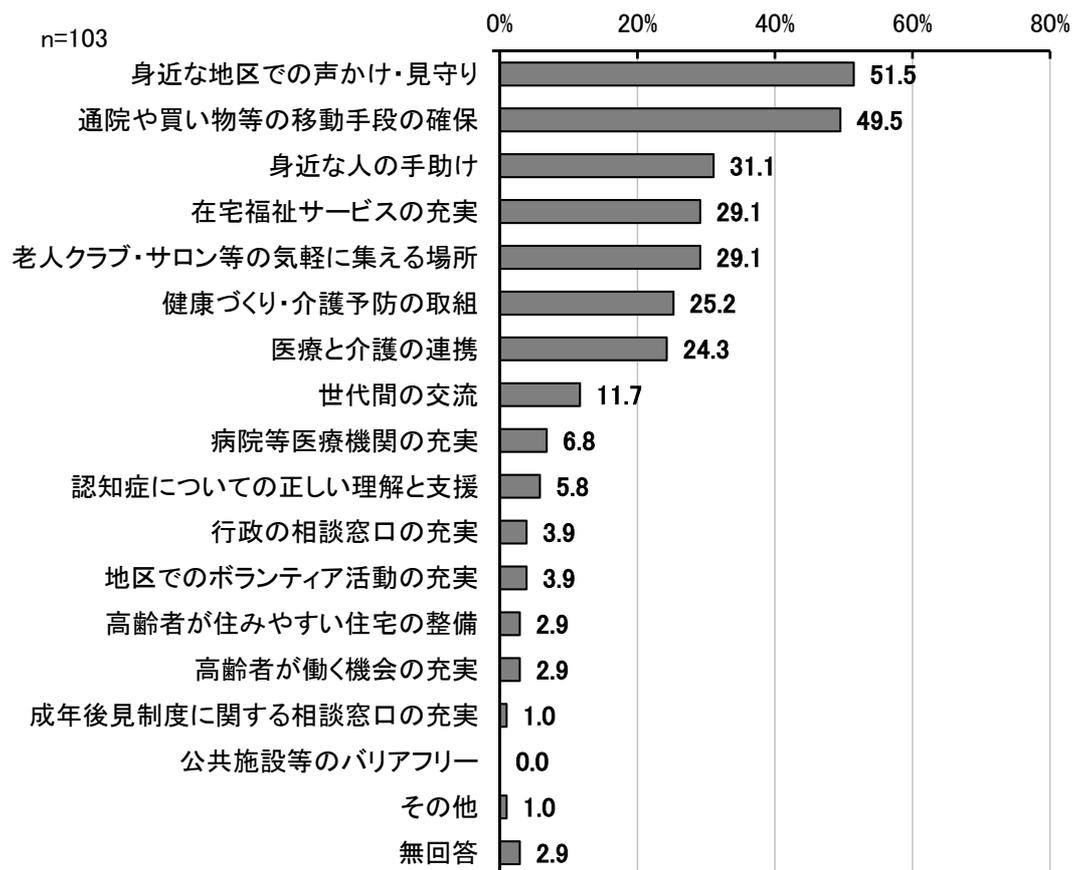
【全体】複数回答



問 11 あなたの担当地区で、高齢者が安心して暮らすためには、何が必要だと思いますか。
(〇は3つまで)

高齢者が安心して暮らすために必要なことについてみると、「身近な地区での声かけ・見守り」が 51.5%と最も高く、次いで「通院や買い物等の移動手段の確保」49.5%、「身近な人の手助け」31.1%などの順になっています。

【全体】複数回答

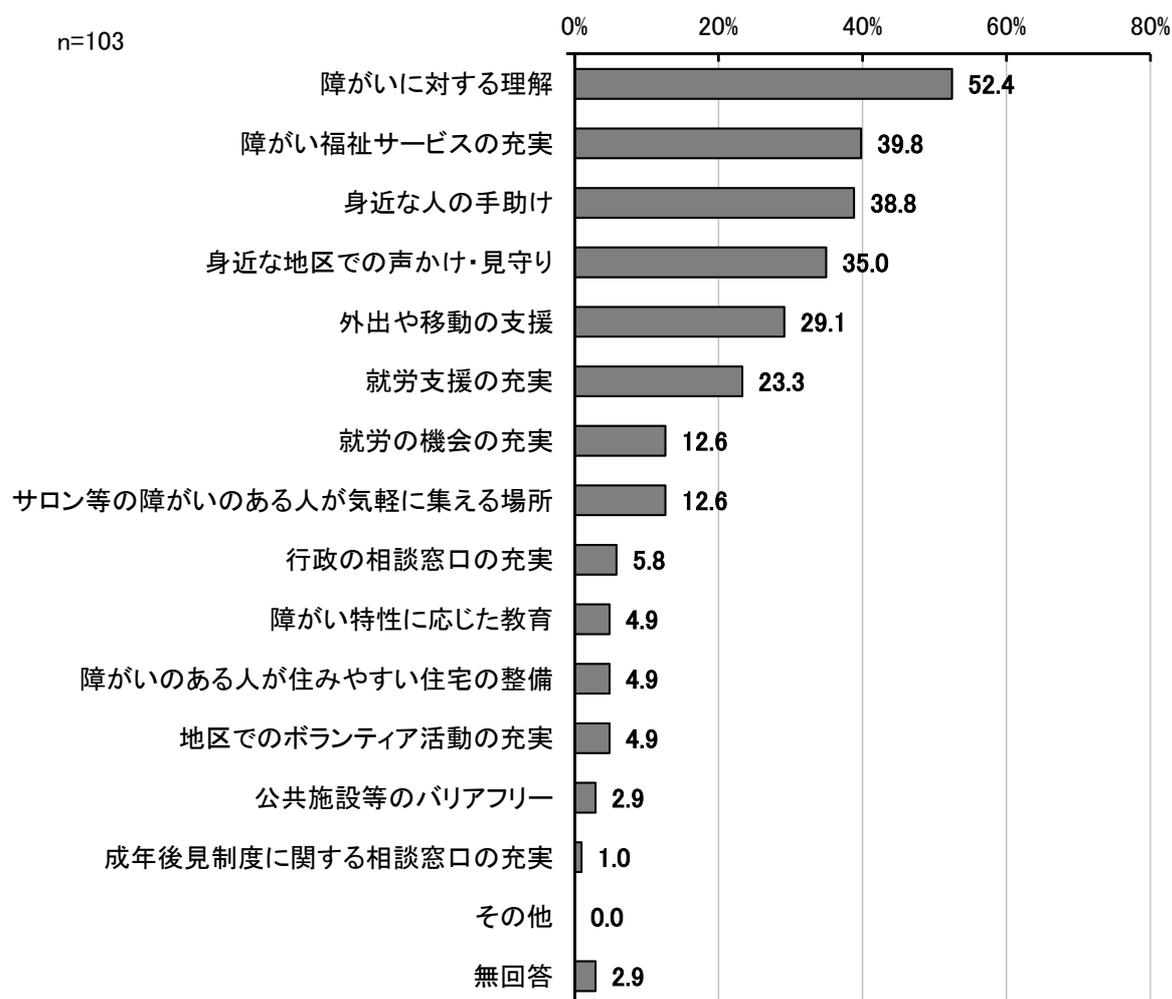


問 12 あなたの担当地区で、障がいのある人が安心して暮らすためには、何が必要だと思いますか。

(○は3つまで)

障がいのある人が安心して暮らすために必要なことについてみると、「障がいに対する理解」52.4%と最も高く、次いで「障がい福祉サービスの充実」39.8%、「身近な人の手助け」38.8%などの順になっています。

【全体】複数回答

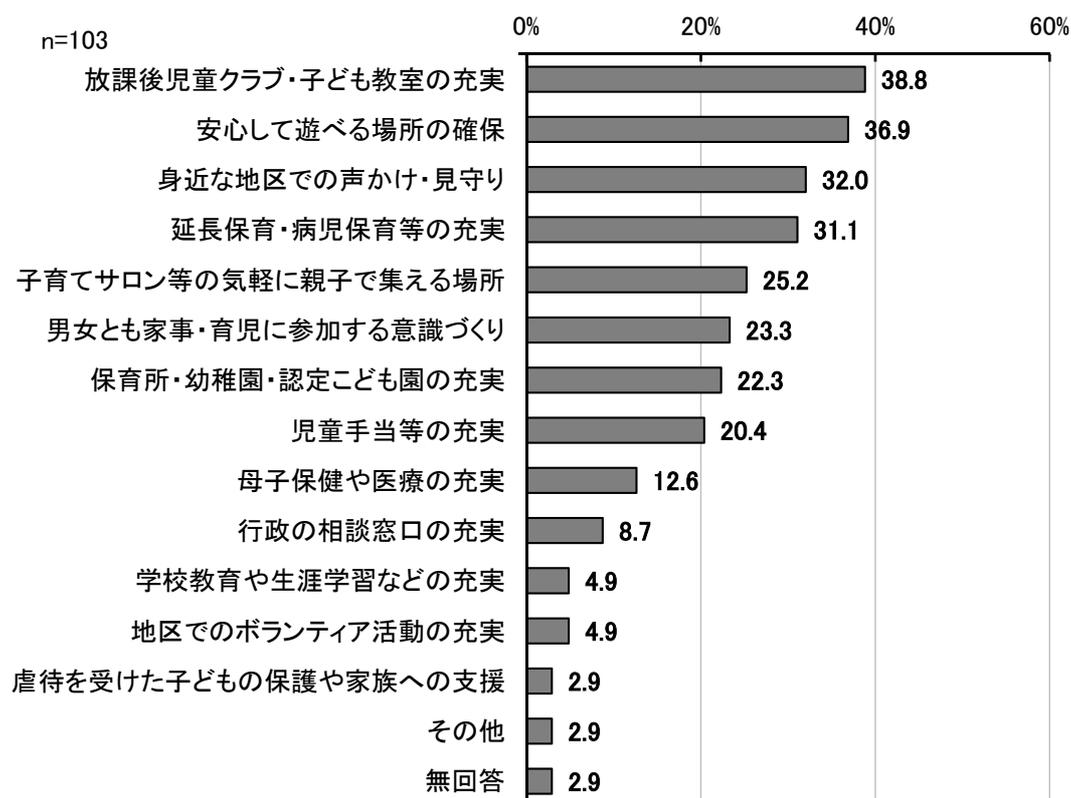


問 13 あなたの担当地区で、子どもや子育て世帯が安心して暮らすためには、何が必要だと思いますか。

(○は3つまで)

子どもや子育て世帯が安心して暮らすために必要なことについてみると、「放課後児童クラブ・子ども教室の充実」が38.8%と最も高く、次いで「安心して遊べる場所の確保」36.9%、「身近な地区での声かけ・見守り」32.0%などの順になっています。

【全体】複数回答

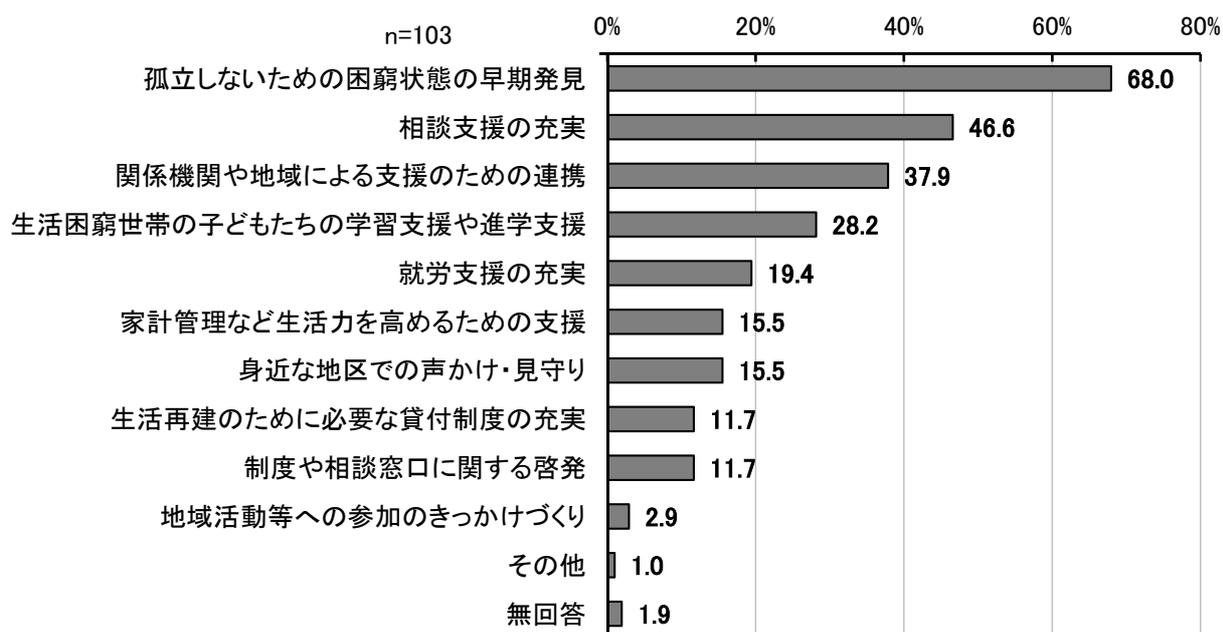


問 14 あなたの担当地区で、生活困窮状態にある世帯への支援として、何が必要だと思いますか。

(〇は3つまで)

生活困窮状態にある世帯への支援として必要なことについてみると、「孤立しないための困窮状態の早期発見」が68.0%と最も高く、次いで「相談支援の充実」46.6%、「関係機関や地域による支援のための連携」37.9%などの順になっています。

【全体】複数回答

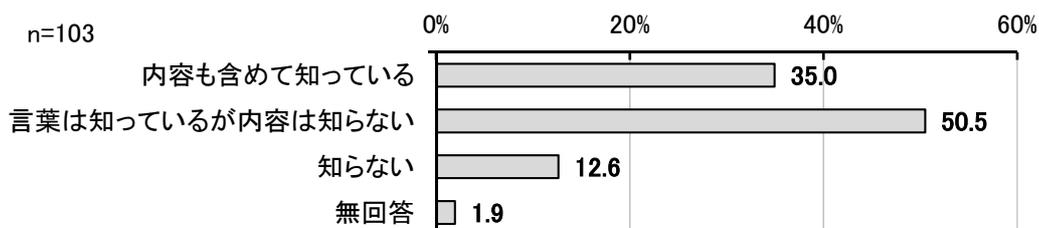


問 15 あなたは生活困窮者自立支援制度についてご存知ですか。

(〇は1つ)

生活困窮者自立支援制度の認知についてみると、「言葉は知っているが内容は知らない」+「知らない」が63.1%と、生活困窮者自立支援制度の内容を知らない方が6割を超えています。また、「内容も含めて知っている」は35.0%となっています。

【全体】単数回答

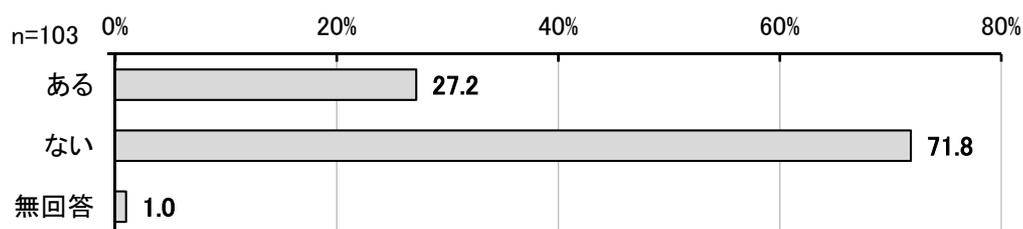


問 16 あなたの担当地区で、生活困窮者自立支援制度について相談を受けたり、関係機関へ取り次いだことはありますか。

(1つに〇)

生活困窮者自立支援制度について相談を受けたり、関係機関へ取り次いだ経験についてみると、「ある」27.2%、「ない」71.8%となっており、3割近くの方は生活困窮者自立支援制度について相談を受けたり、関係機関へ取り次いだ経験があります。

【全体】単数回答

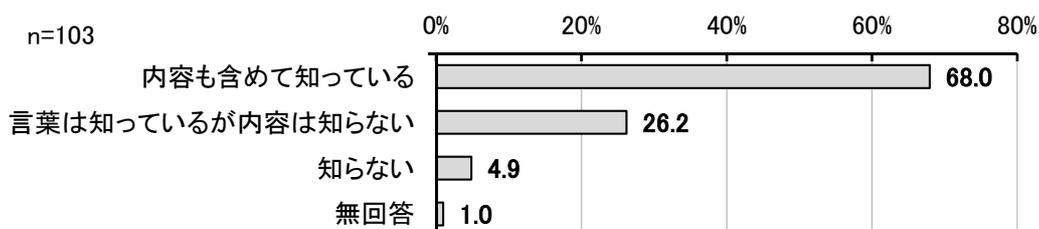


問 17 あなたは成年後見制度についてご存知ですか。

(1つに〇)

成年後見制度の認知についてみると、「内容も含めて知っている」が68.0%と、約7割の方が内容も含めて成年後見制度を認知しています。一方で、「言葉は知っているが内容は知らない」+「知らない」が31.1%と、3割の方は成年後見制度の内容を知らない状況となっています。

【全体】単数回答



問 18 あなたの担当地区で、成年後見制度について相談を受けたり、関係機関へ取り次いだことはありますか。

(1つに〇)

成年後見制度について相談を受けたり、関係機関へ取り次いだ経験についてみると、「ある」7.8%、「ない」91.3%となっており、9割の方は成年後見制度について相談を受けたり、関係機関へ取り次いだ経験はない状況となっています。

【全体】単数回答

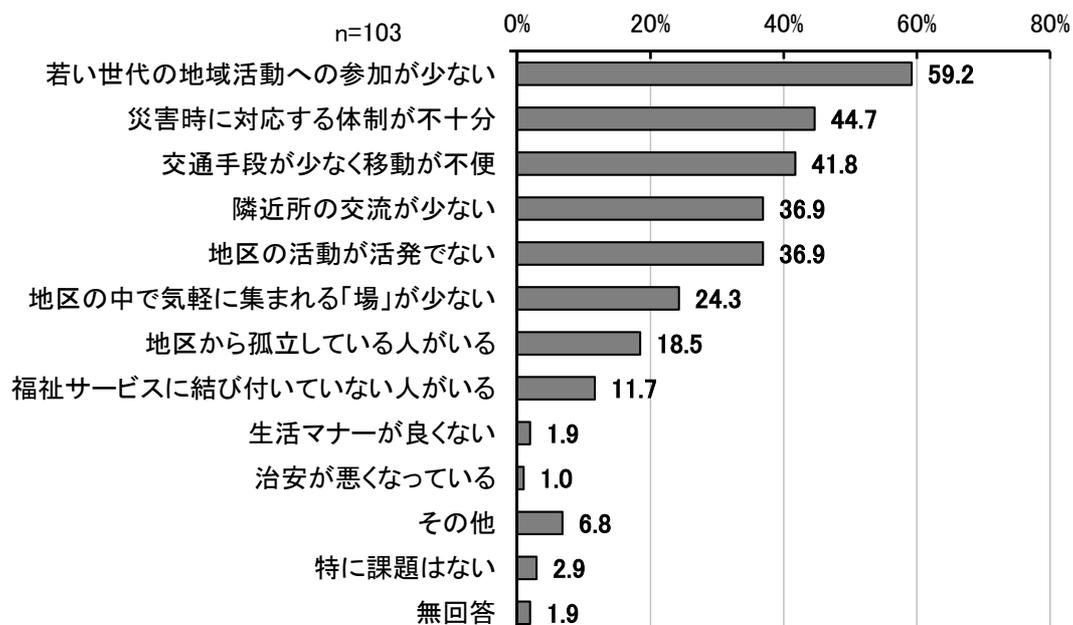


問 19 あなたの担当地区では何が課題だと思えますか、

(〇はいくつでも)

地区の課題についてみると、「若い世代の地域活動への参加が少ない」が59.2%と最も高く、次いで「災害時に対応する体制が不十分」44.7%、「交通手段が少なく移動が不便」41.8%などの順になっています。また、「特に課題はない」2.9%となっています。

【全体】複数回答

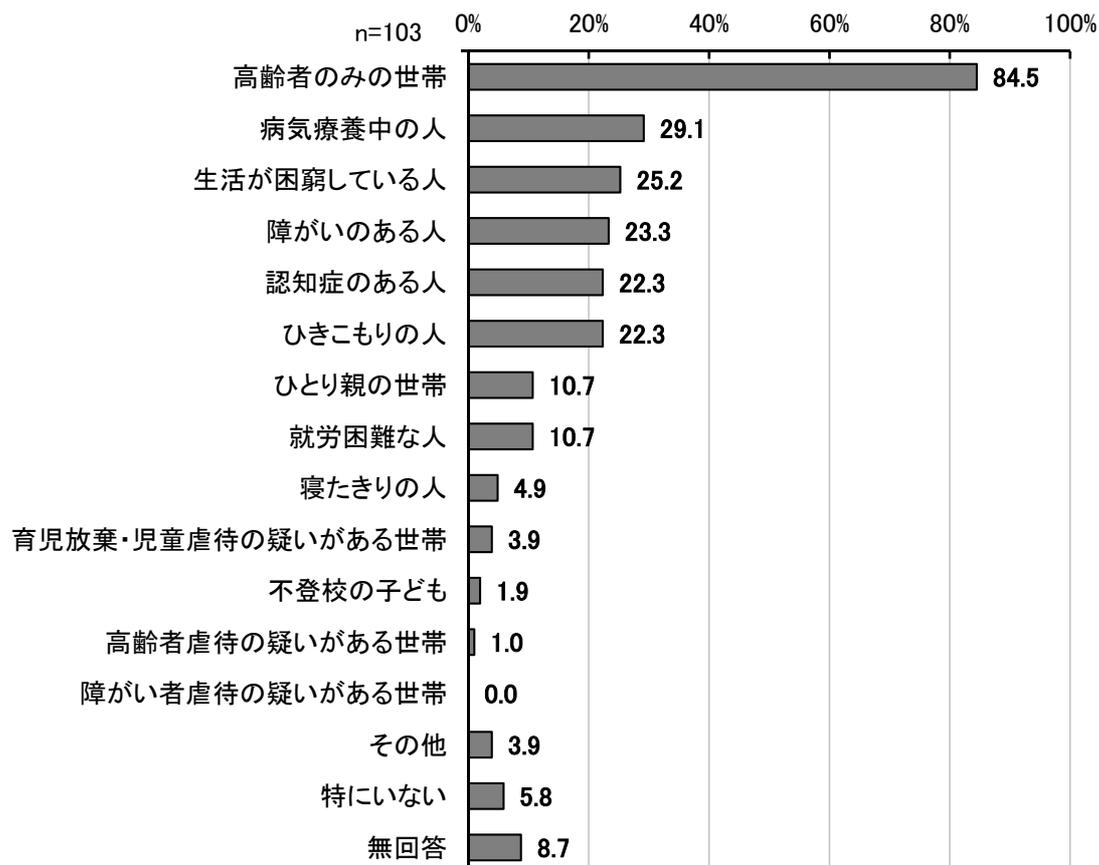


問 20 あなたの担当地区で見守り対象としている方、または、世帯はありますか。

(〇はいくつでも)

地区で課題のある方、世帯についてみると、「高齢者のみの世帯」が 84.5%と最も高く、次いで「病気療養中の人」29.1%、「生活が困窮している人」25.2%などの順になっています。また、「特にいない」5.8%となっています。

【全体】複数回答

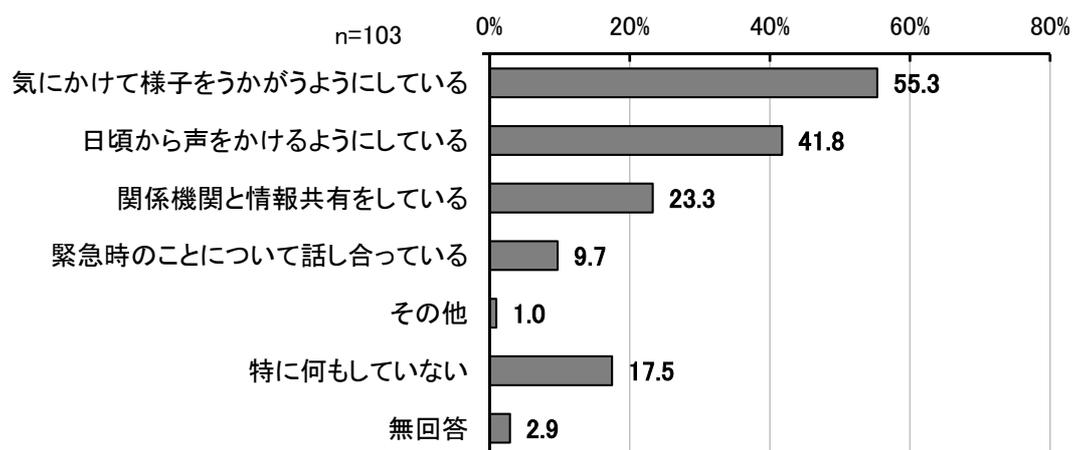


問 21 災害時に支援が必要な人に対して日常的に支援していることはありますか。

(〇はいくつでも)

災害時に支援が必要な人に対して日常的に支援していることについてみると、「気にかけて様子をうかがうようにしている」が 55.3%と最も高く、次いで「日頃から声をかけるようにしている」41.8%、「関係機関と情報共有をしている」23.3%などの順になっています。また、「特に何もしていない」17.5%となっています。

【全体】複数回答

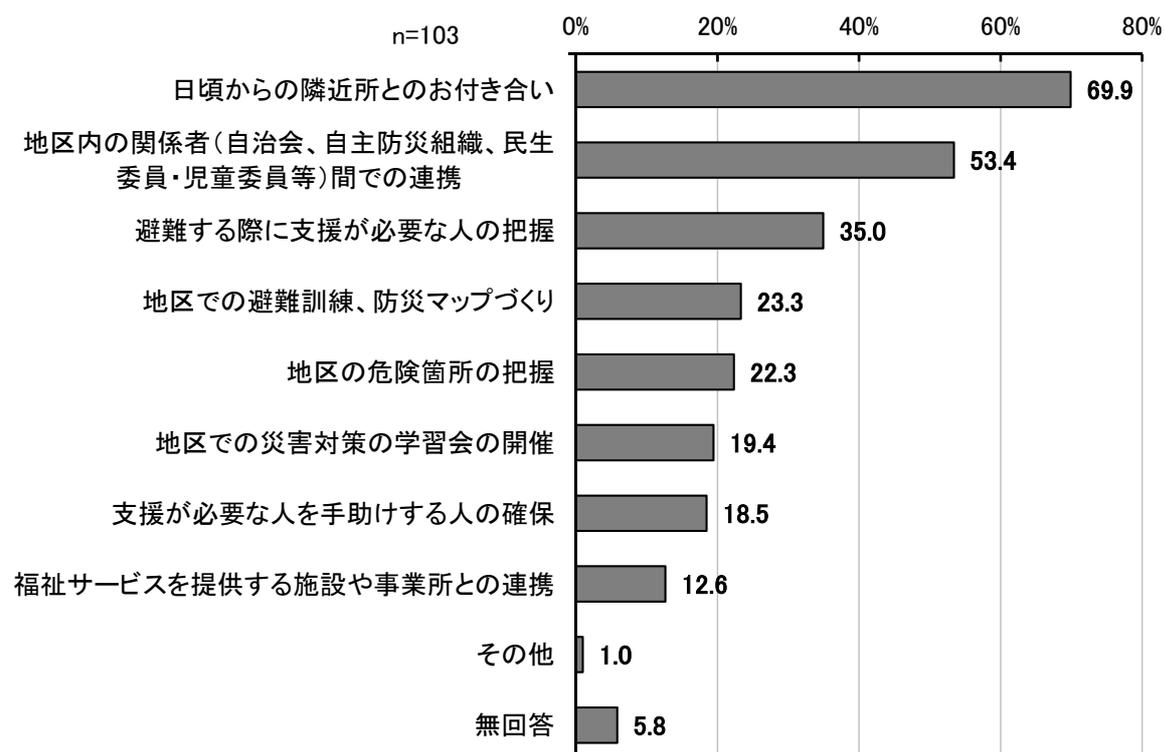


問 22 災害時に住民が支え合う地域づくりを進めるには、何が必要だと思いますか。

(〇は3つまで)

災害時に住民が支え合う地域づくりの推進に必要なことについてみると、「日頃からの隣近所とお付き合い」が69.9%と最も高く、次いで「地区内の関係者（自治会、自主防災組織、民生委員・児童委員等）間での連携」53.4%、「避難する際に支援が必要な人の把握」35.0%などの順になっています。

【全体】複数回答

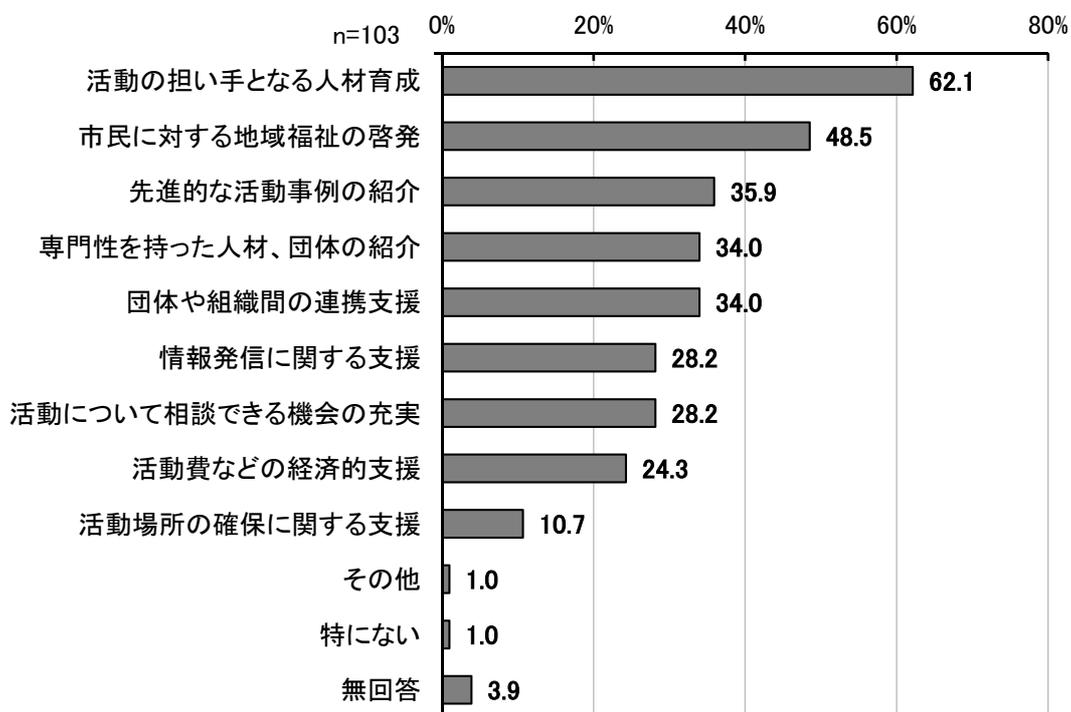


Ⅲ. 地域福祉へのご意見について

問 23 あなたが活動するにあたり、地域福祉推進のために行政に求めることはありますか。
(〇はいくつでも)

地域福祉推進のために行政に求めることについてみると、「活動の担い手となる人材育成」が 62.1%と最も高く、次いで「市民に対する地域福祉の啓発」48.5%、「先進的な活動事例の紹介」35.9%などの順になっています。

【全体】複数回答



問 24 今後、住民誰もが生活上困ったことがあっても、住み慣れた地域で安心して生活していくために、行政はどのような施策を行っていくべきだと思いますか。

(〇はいくつでも)

住民が住み慣れた地域で安心して暮らすために行政が行うべき施策についてみると、「身近な場所で相談できる窓口を増やす」が56.3%と最も高く、次いで「保健や福祉に関する情報提供を充実させる」46.6%、「地域における保健や福祉に関する活動の中心となる人材を育てる」45.6%などの順になっています。

【全体】複数回答

